

IPUジビエ×デニム エシカルグッズ開発プロジェクト

～ジビエレザーと岡山デニムを活かす循環型ものづくり～



IPU環太平洋大学サステナブルブランドプロジェクト
経済経営学部 現代経営学科3年 扇野ゼミ所属 トウ カセン、領田 伍希

岡山市瀬戸地区を含む中山間地域では、イノシシやシカによる農作物被害が地域課題となっている。一方で、捕獲された鳥獣の革などは十分に活用されず、命を地域資源として活かす循環型の仕組みづくりが求められている。

また、岡山県はデニム産地として知られるが、製造過程で生じる端材の有効活用も課題である。

本事業では、瀬戸地区のジビエレザーと岡山デニムの端材を組み合わせ、学生の視点でエシカルグッズを開発する。鳥獣被害と廃棄素材の課題を、地域資源の新たな価値創出へ転換することを目的とする。

大学周辺はイノシシ・シカの恰好の生息地

IPU SUSTAINABLE
BRAND PROJECT



ジビエとは？

Gibier (フランス語)

ジビエとは、狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉を意味する言葉で、ヨーロッパでは貴族の伝統料理として古くから発展してきた食文化です。

ジビエレザーは、食肉として消費された野生動物の獣皮をアップサイクルしたレザーです。



写真は鹿肉のソテー



害獣を取り巻く問題

捕 獲

約1割

食肉として消費

皮はほとんど焼却

約1割

捕獲した
野生動物は
ほとんど
焼却



焼却

CO2排出



クロムなめし
環境汚染・健康被害

人にも環境にもやさしい
植物由来の
ラセッターなめし

ラセッターなめしとは

ミモザを用いて獣皮から革へアップサイクルし、人にも環境にもやさしく、赤ちゃんにも安心なレザー



朽葉（ラセツト）が由来。地球と自然そして人にやさしい循環型社会の実現を目指して、名づけられました。



開発者のタンナー 山口明宏さん
山口産業株式会社／代表取締役
一般社団法人やさしい革／代表理事

パーパス (Why／なぜやるのか)

人間の都合で奪った命を、大切にしてくれる人のもとへ届ける。

ビジョン (Where／どこに向かうのか)

いのちと向き合い、地域とつながり、社会に活かす力を育てる。

「なぜ奪われた命が無駄にされているのか」という問いから出発し、食・自然・地域との関係を学び、行動することで、持続可能な社会をつくる担い手を育てます。

ミッション (What／何をするのか)

- ①食・皮を活かし、野生鳥獣の命を無駄にしない地域循環モデルを実践する。
- ②持続可能な開発のための教育（ESD）を通じて、命を扱う責任と持続可能な暮らしの価値を社会に発信する。

2026年9月28日 株式会社ジャパングルー様訪問



岡山県倉敷市児島に本社を置く、世界的に有名なデニム・ジーンズの製造・販売および
テキスタイル企画を手がけるアパレル企業
桃太郎ジーンズ（MOMOTARO JEANS）本店、藍染工場を見学し、
デニム発祥の地としての歴史・文化を学ぶ